



訪問診療・往診専門

医療
法人

かさまつ在宅クリニック

かさまつ通信

No.51

令和8年8月

2026年 ③

2026年7月28日、令和8年熊本地震が発生しました。猛暑のなかでの避難生活は過酷な環境であると思います。前回10年前の熊本地震とは大きく異なる点です。熊本県内の86医療機関が断水や停電などの被害を受けたと発表されています（厚労省）。病院間搬送が行われていますが、エレベーターが使えず、担架で一人ずつ移動している映像を確認しました。執筆している8月2日時点では、多くのところで電気が復旧してきています。ただ、各家庭の電気復旧は、まだのところもあるようです。車中泊が続くものと予想されます。DMAT受け入れ拠点となっている済生会熊本病院（熊本市南区）では、病院職員やDMAT隊員の仮眠スペースが不足しているようです。高市首相は、車中泊をしている被災者が多いことを踏まえ、ガソリンの供給に万全を期すと述べられています。また、プッシュ型支援も強化すると表明されています。物流輸送が活発になる夏ですが、ライフラインに関わる輸送を優先してほしいものです。

徳島県からもDMATが出発しました。人手不足のなか、なんとかやりくりして人員調整していると聞きました。熊本県内は、所々で道路の隆起があり、交通事情はよくないようです。迂回しながら集合場所に向かっていているようです。遠い任務地ですが、無事にたどりつき、気をつけ活動していただきたいと思います。被災者を悩ますトイレ問題。トイレ回数を減らすために、水分摂取を控えているというお話しも聞きます。熱中症が心配です。徳島県からトイレカーも出発したそうです。是非、利用していただきたいと思います。



前回の熊本地震では、災害関連死が直接死の約4倍だったと報告されています。長期の避難生活が強いられた場合、疲労やストレスによる消化管出血、長期の車中泊によるエコノミークラス症候群、熱中症は、非常に要注意になります。避難所に行きたくても、行くことができない高齢者も多くいます。民生委員や地域包括支援センター等の職員の訪問、そして訪問診療、訪問看護や訪問介護サービス等の訪問系のアプローチが重要になってくると思います。熊本の動きを注視しながら、徳島からできる支援をしていきたいと思っています。

【左図：2026.7.30 産経新聞より引用】

※今号の《本のご紹介》は、休ませていただきました。

（院長 笠松 哲司）





訪問診療・往診専門

医療
法人

かさまつ在宅クリニック

かさまつ通信

No.51

令和8年8月

残暑お見舞い申し上げます。

今年は40℃にも迫る酷暑のニュースを聞くことも多いですが、暦の上ではもう立秋。朝晩は心なしかちょっぴり涼しい風が吹いているようにも思います。

この原稿を書いている本日は令和8年8月8日、8が3つ並んだ末広がりのでたい日！我が家の愛犬たちがお世話になっております獣医さんは、「はち」動物病院さんなのですが、ちょうど移転してから8周年をお迎えになるそうで、さすが！！です。

（ご移転8周年記念の1週間前にお世話になりました。）



さて、先月7月28日に発生した令和8年熊本地震は、マグニチュード7.1の大地震でした。まだ記憶にも新しい10年前の熊本地震の後ぐらいから、医療的ケア児さんの大規模災害対策の重要性が強調されています。大きな地震が発生するたびに、報道等で現地の状況をリアルタイムで見聞きし、皆さんも緊張を感じておられることと思います。私もいざとなったら冷静ではいられないと思いますが、日々の身近なところから、防災対策の見直しをしておきましょう。

当クリニックでは、板野東部消防さんのご協力のもと、管轄区域にお住いの在宅人工呼吸器使用児さんの救急搬送シミュレーションを行いました。平時における搬送を想定して、救急車に収容する際の注意点を消防署員の皆さんと共有しました。医療的ケア児の皆さんは、成長に伴って体格も大きくなりますし、使用する医療機器も変わることがあります。平時から在宅医療機関と消防機関が連携することで、災害時の避難計画にも繋げていけるのではないかと考えています。

（小児科 笠松 由華）



救急車に乗せる際に必要な物品や医療機器の確認を行いました。大変暑い中、ご協力ありがとうございました。

〒770-8054 徳島市山城西4丁目13-3
HP: <http://www.kasamatsu-zaitaku.com>

TEL: 088-679-6393
FAX: 088-679-6394





訪問診療・往診専門

医療
法人

かさまつ在宅クリニック

かさまつ通信

No.51

令和8年8月

暑い日が続くこの時期、脱水にならないよう水分、塩分補給を！とよく聞かれると思います。心臓や腎臓の働きが悪い方は、体内にたまった水分を出すために普段から「利尿剤」を飲まれていることが多く、さらに汗をかくことで脱水が進みやすくなります。また、体の機能維持のために必要な電解質ナトリウムやカリウムも一緒に失われてしまうため、その分を補う必要があります。口当たりのよい果物には水分や電解質も適度に含まれており、飲み物で水分補給が苦手な高齢者の方にプラスして取り入れやすいと思います。（ただし 採血でカリウムなどの数値が高い、血糖値が高い方と言われている方は、果物のとりすぎには注意が必要です。）

今年も自宅で育てている胡蝶蘭が咲きました。（薬剤師 宮田）



大きな地震があったことで、非常持ち出し袋の点検をしました。普段から、非常食のローリングストックは気にかけていましたが、足りないときにちょっと使ったものが補充できていませんでした。また、ニュースでウェットティッシュが不足していると聞き（からだを拭くため）、追加しました。また、防災士さんから災害が起こった時、水とブルーシートと乾電池が手に入らないと教えていただき、多めに備えています。

連日の暑さの中、自宅の塀にクロアゲハがサナギになり2個くっついていました。一匹は無事に蝶となり飛び立ったようですが、まだ残っている一匹がどうなるのかと心配して見守っています。（看護師 高橋）



残暑お見舞い申し上げます。

先日、市場町と川島町の境界にある『善入寺島』のひまわりを見に行ってきました。とにかく暑すぎて、車を降りて数枚撮るだけで精一杯でしたが、夏らしい写真が撮れました。秋になったら一面のコスモスが楽しめるようですよ。

小松島港まつりの花火と、

ブルーインパルスを添えて… （事務 松原）

